

令和元年度 唐津市立玉島小学校 学校評価計画

1 学校教育目標
“たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう” 子どもの育成 ～豊かでたくましい心と体の育成と確かな学力の定着をめざして～

2 学校経営ビジョン
目指す学校像(チーム玉島) ～つながりを大切に～◇児童と児童、教師と児童、教師と教師、教師と保護者、学校と地域 ～智(知)徳体で玉を磨く～
知 6年間の一貫規律指導 校内研究の充実 家庭への啓発 PTAとの連携による家読システムづくり 図書室利用推進 家庭学習の充実 徳 予防的開発的生徒指導・教育相談体制づくり QU・学級力アンケート・学級経営案による検証 人権教育の充実 コーディネーターを中心とした特別支援教育体制 地域の匠の開発・活用 生活科・総合的な学習の時間(玉島学)の充実 無言掃除(がまん玉磨き) 家庭との連携・啓発 体 たてわり遊びの充実 食育の充実 家庭・地域への啓発(ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホとともに)
目指す児童の姿 確かな学力(知) ◇友だちと学び合い、しっかり考える子 ◇言葉の力をいかし、自分を表現しようとする子 ◇家庭の見守りを受け、家庭学習に取り組む子 (賢い心を磨く) ◇本に親しみ、知識を広げる子 豊かな心(徳) ◇元気にあいさつや返事をし、相手を尊重し、思いやりの心を広げる子 ◇ふるさとを愛する子 (豊かな心を培う) ◇玉みがき掃除やボランティア活動で自分の心を磨く子 たくましい体と心(体) ◇外遊び・運動で体を鍛える子 ◇徒歩通学や外遊びを仲間づくりで生かす子 ◇「早寝、早起き、朝ごはん」に取り組む子 (強い体と心を鍛える)

3 本年度の重点目標	
① 心の教育の推進 ② 確かな学力の定着 ③ たくましい体と心づくり ④ 地域のよさを活かした豊かな体験活動	めざす子ども～こんな玉島っ子になろう～ ① 「なかよし学習」でしっかり考え、友だちと学び合う ② 毎日自学・100冊読書で、智恵を磨こう 【確かな学力(賢い心を磨く)】 ③ 自分から元気な「あいさつ(仲間のあかし)」「返事(やるきスイッチ)」をしよう ④ 玉みがき掃除を通して、「がまん玉」「見つけ玉」「親切玉」「正直玉」「感謝玉」を磨こう 【豊かな心(豊かな心を培おう)】 ⑤ 陽をあびて、仲間と共に歩き、遊ぼう 【たくましい体(強い体を鍛えよう)】

4 目標・評価

① 心の教育の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●心の教育	玉みがき掃除・道徳教育・委員会活動の充実	・子ども達のやる気を引き出す。 ・子ども達の実態に応じた授業実践を行う。 ・委員会活動の意義を自覚させ、活動の活性化につなげる。	・自問ノートや道徳ノートの中の子ども達の考えに「価値」を見出し、称賛や励ましのコメントを書くことで、自分で判断して行動する力を育てる。また、それらを広報する自問放送を年間11回行う。 ・全職員で「ここにこ集会」の取り組みを年間6回行い、子ども達の人権意識を高める。 ・「学級力アンケート」を年間5回実施し、より良い学級をつくる意識を高める。 ・何のためにその委員会活動をするのかを考えさせ、それぞれの委員会のめあて意識を持たせる。また、その活動を行うことによって、自分にどんな力をつけたのかを考えさせる。	特別活動開発部 (豊かな心プロジェクト)	中野永洲 力武
	●いじめの問題への対応	早期発見、早期対応体制の確立	・玉島っ子(生活)アンケートを2ヶ月に1回行い、いじめ等の児童の問題の早期発見・早期対応に努める。 ・本校のいじめ防止基本方針を、いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルに従って充実させ、対応の迅速化を図る。 ・被害を受けた児童への適切な支援と、加害児童への適切な指導を行う。	・「玉島っ子(生活)アンケート」を2ヶ月に1回実施し、児童の生活上の問題点を把握・改善し、学校生活が「楽しい・たいたい楽しい」と答える児童を80%以上にする。 ・「いじめ・体罰アンケート」を無記名で児童・保護者を対象に年1回実施し、事案に応じて聞き取りや状況把握を行い、対策委員会を開催し、早期対応・早期解決を図る。 ・いじめの認知・覚知に対する研修と共通理解を夏季休業中までに図るとともに、早期発見・早期対応ができる校内体制の整備と迅速な対応、関係機関との連絡支援体制の充実を図る。	生徒指導開発部 (たくましさプロジェクト)	行徳岩村 門川
② 確かな学力の定着						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●学力の向上	学習内容の定着と活用力の向上	・児童が自分の考えをもち、相手に分かるように伝え、学び合うための支援の在り方を探る。 ・4～6年は、12月実施の県テストで「おおむね達成」プラス0.1ポイントを目指す。 ・1～3年は、標準学力調査の結果で市平均を目指す。 ・PDCAサイクルを基に、児童の実態に応じた授業改善を図る。 ・読書をする児童を増やす。	・単元を見通した学習計画の立案と毎時間のめあての設定、及び、まとめ、振り返りの充実を図る。 ・「なかよし学習」を全教科に広げ、「主体的」「対話的」「深い学び」になるよう授業改善を行う。 ・自分の考えを伝える力が不十分なので、授業の中にグループやペアで互いの考えを伝え合う学びの場を設定し、説明する力を伸ばす。 ・「自学ノート」への取り組みを充実させ、年3回自学ノートの公開を行う。 ・言語能力、読書力を増やす掲示物の工夫など、学習環境の充実を努める。 ・「さくらの会」による「朝の読書」や週1回の図書の時間を充実させ、年間「読書100冊」を達成する児童を80%以上にする。	学習指導開発部 (確かな学力プロジェクト)	行徳田原 増本
特定課題	○小学校低学年の学習環境改善の充実	基本的な生活習慣、学習習慣の育成	・あいさつ、ことばづかい、返事、時間励行を定着させる。 ・先生や友だちの話をよく聞く態度を定着させる。 ・学習の準備、宿題の定着率を90%以上にする。	①姿勢を直す(立腰) ②相手を見て、元気のよいあいさつや返事 ③始まるの時間を守る ④相手の話が終わるまで話さない を重点目標とし、全校朝会や学級などのあらゆる機会に全職員で指導する。 ・9年間を見通した「家庭学習のしおり」を配布し、保護者と連携して定着を図る。	低学年部 (確かな学力プロジェクト)	上田伯 力武 池
③ たくましい体と心づくり						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●健康・体力づくり	運動習慣の改善や定着化 望ましい生活習慣の定着	・外遊びの好きな児童を80%以上にする。 ・朝食の中身の充実や、給食の完食を目指す。 ・徒歩通学する児童を80%以上にする。	・これまでの本校の伝統を継承・発展させるとともに、相撲大会や持久走大会に全校で主体的に取り組めるように工夫する。 ・スポーツチャレンジの取り組みや、朝の時間や昼休みを利用した体育委員や上級生主体の共遊活動等を通して体力づくりに取り組む。 ・朝の登校指導を通して、安易な車での送迎を減らし、保護者に対し理解と協力を求める。 ・毎朝の健康観察や生活チェック表などを活用して児童の意識を高め、家庭と連携した食育指導に取り組む。	保健体育開発部 (たくましさプロジェクト)	中野岩村
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童70%以上。 ・授業において「振り返り」を実施し、「わかった」「できた」と評価する児童70%以上。 ・郷土について学ぶ授業や体験活動を年1回行う。	・学校行事や授業を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・授業において「振り返り」の時間を設ける。 ・キャリア教育の視点を取り入れた年間計画を策定する。 ・地域の教育資源や人材等を活用した授業を実施する。	保健体育開発部 (たくましさプロジェクト)	松門行徳
④ 地域のよさを活かした豊かな体験活動						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者・地域との連携、学校の危機管理と情報公開の推進	・地域の人材を活用した小・小中連携教育を推進する。 ・年2回の学校公開日への来校者の参加人数の増加をめざす。(保護者の90%以上、地域関係者の年間来校者のべ150名以上) ・保護者とともに、家庭教育の推進を図る。	・授業参観では、学級通信等を通して、事前に学習内容を保護者に伝える。 ・学校公開日には、地域にもチラシを配付して、積極的に参加を促す。 ・「玉島小外部人材活用表」と「いきいき学ぶからつ子事業」を使って、生活科や総合的な学習の時間を活用し地域学習「玉島学」の取組と充実を図る。 ・家庭学習ノートへの親のチェックが毎日入るノート90%以上を目指す。 ・「家読りレー」ができた児童90%以上を目指す。	学習指導開発部 (確かな学力プロジェクト)	行徳教頭 小城
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・行事や行事内容の精選を行い、教材研究や子どもと向き合う時間をつくる。 ・職員の負担感を減らすため、一人で仕事を抱え込むことがないようにする。 ・時間外勤務時間を昨年より5%減らす。	・提案文書の最初に児童に「育てたい力」を明記し、目標をはっきりさせて提案することで、一つ一つの行事や行事内容の精選を行う。 ・職員会議の中に業務改善の項目をつくり、毎月1回は学校の業務について見つめ直し、共通理解を図る。 ・校務分掌のプロジェクト化を進め、チームで当たることで、個人に負担がかからないようにする。 ・定時退勤推進日は、勤務終了後1時間、平日は18:30施設とし、時間外勤務時間を昨年より5%減らす。	業務改善委員会	教頭行徳 熊本

●は共通評価項目、○は独自評価項目